

新・新潟市の教育ビジョン検討委員会 市民委員を公募

今後の新・新潟市(合併13市町村)の教育が目指す方向とあり方を明確に示すため、今年度から「教育ビジョン」の策定を開始します。その教育ビジョン策定に関する検討を行う教育ビジョン検討委員会の委員を、新・新潟市内在住の皆さんから公募します。

◆対象 新潟市または合併予定12市町村(新・新潟市)在住者で、応募する日において20歳以上の人で、年4回程度、原則として平日午後に行う会議に参加できる人。

◆応募方法 7月15日(必着)までに、「新・新潟市の教育に望むこと」と題した作文(800字〜1200字)と、住所、氏名、電話番号、生年月日、性別、現在の職業と活動歴(教育、福祉、環境、まちづくり等)に関する活動を記入し、直接お持ちいただくか、郵便、FAX、電子メールでお送りください。

◆応募方法 はがき、FAXまたは電子メールに参加者全員(1申込みにつき最大7名まで)の住所、氏名、電話番号、大人・子ども(学年)の別、送迎バス利用有無(新潟駅発(午前9時)利用)、「岩室駅発(午前10時15分)利用」、「利用しない」から選択)をお送りください。

◆応募方法 ハガキまたは電子メール等で、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記の上、7月31日(日)までに応募ください。川柳作品は自作未発表のもので1人5点まで。作品には必ずふりがなをつけてください。

地域の魅力探訪ツアー 参加者募集

○申込・問い合わせ にごがた食の祭典実行委員会事務局(新潟市総合企画課内) ☎228-1000(内線2102) ☎223-1557 E-mail kikaku@city.niigata.lg.jp

◆日時 8月22日(日) 午前10時30分〜午後3時30分 ◆会場 岩室村伝統文化伝承館 地元旅館及びその周辺 ◆参加者 150名 ◆応募者多数の場合は抽選。

◆応募方法 はがき、FAXまたは電子メールに参加者全員(1申込みにつき最大7名まで)の住所、氏名、電話番号、大人・子ども(学年)の別、送迎バス利用有無(新潟駅発(午前9時)利用)、「岩室駅発(午前10時15分)利用」、「利用しない」から選択)をお送りください。

◆応募方法 ハガキまたは電子メール等で、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記の上、7月31日(日)までに応募ください。川柳作品は自作未発表のもので1人5点まで。作品には必ずふりがなをつけてください。

◆応募方法 ハガキまたは電子メール等で、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記の上、7月31日(日)までに応募ください。川柳作品は自作未発表のもので1人5点まで。作品には必ずふりがなをつけてください。

横越歴史探訪⑤

横越は陸上交通の要衝へ

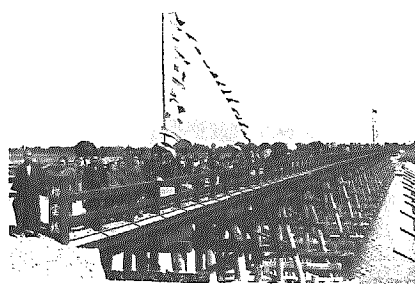
交通・輸送の活発化

明治時代に入り、横越地域だけでなく、他地域との人々の交通や物資の輸送も次第に活発になり、それにつれて交通路も徐々に開けてきました。

横雲橋の変遷

Table with 5 columns: 横雲橋, 完成年, 長さ, 幅, 材質. Rows include 初代 (明治8年, 306m, 5.4m, 木), 2代目 (明治21年, 306m, 5.4m, 木), 3代目 (明治35年, 306m, 5.4m, 木), 4代目 (大正14年, 549m, 4.5m, 木・砂利等), 5代目 (昭和39年, 905m, 7.0m, 鉄・コンクリート)

初代〜3代目は、現在の横雲橋よりも下流側、4代目は上流側にあった。初代〜4代目は、横越の堤防から対岸の河川敷までの架橋であったため、大雨で川が増水した時は利用できなかった。



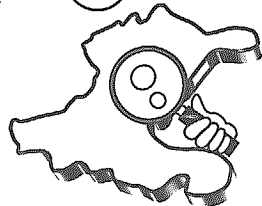
大正14年7月4日の4代目横雲橋の渡橋式

横雲橋架橋後も、渡し舟は生活や産業に重要な交通・物流手段で、沢海―満願寺(新津市)、焼山(阿賀野)―窪川原(阿賀野市)、三ツ口(木津)―大蔵(新津市)で渡し舟が活躍。大正13年には、阿賀野川の河道変更に伴い、沢海―焼山の渡し舟も加



昭和39年5月8日に行われた横雲橋の渡り初め

昭和33年、ついに新しい永久橋の建設に着手しました。5年の歳月をかけて、総工費4億1,400万円、長さ905.1m、幅7mという画期的な長大で頑丈な永久橋が完成。昭和39年5月8日、塚田県知事、伊藤横越村長、京ヶ瀬村長など約300人が参列して、竣工式・渡り初めが盛大に行われ、開通しました。



昭和36年(昭36)の子ども通学の人々や農作業の人が利用した。焼山―沢海間の渡し舟(昭和36年撮影)。

渡し舟も活躍

横雲橋架橋後も、渡し舟は生活や産業に重要な交通・物流手段で、沢海―満願寺(新津市)、焼山(阿賀野)―窪川原(阿賀野市)、三ツ口(木津)―大蔵(新津市)で渡し舟が活躍。大正13年には、阿賀野川の河道変更に伴い、沢海―焼山の渡し舟も加

陸上交通の要衝へ

明治24年に、横越を経由する新潟―会津若松間の県道が開通、

横雲橋は永久橋として

4代目横雲橋は、自動車の普及などでますます交通量が増加したことや洪水などにより、耐久性・安全性で不安が残る状態となり、永久化が叫ばれるようになりました。

昭和55年廃止。ところで、木橋の横雲橋はたびたび洪水に見舞われ、橋が流失するたびに補修を繰り返してきました。橋の利用が年々増加していく中で、洪水で橋がなくなると、村民はもろんのこと、新潟市周辺の産業に与える影響は大変大きく、緊急措置として渡し舟が往き来しましたが、風雨等により連休し、困ることも度々ありました。

大正14年には、亀田―水原間で横越經由のバスが運行開始。さらに昭和3年に新潟―新津間で二本木經由のバスが運行されました。